

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300377
法人名	社会福祉法人正和会
事業所名	のぞみ ささえ
所在地	宇和島市保田甲1932-2 (電話) 0895-20-3280
自己評価作成日	平成23年12月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最初の頃は立地条件が悪く、地域の方の訪問がしにくいと言っていましたが、今ではその立地条件を生かして、天気の良い暖かい日を選んで、芝生広場で焼き芋、焼肉等をして外で食事楽しんでいる。先日も焼き芋とめざしを焼くと「昔はよく食べた」と利用者さんも懐かしがって喜ばれる。今後もっと利用者さんの笑顔が見れるように職員でがんばりたいと思います。また日常の運動等も、空気の良いところで音楽を聴きながら、楽しく手足の運動が出来ます。「緑がきれいで気持ちが良い」と利用者さんからの一言がうれしい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議では、地域の情報や外出先を教えていただいたり、ボランティアを紹介していただくこともある。評価実施時には、結果を報告して、地域とおつきあいを深められるよう、メンバーと意見交換を行い、行事時には地域の高齢者が参加しやすいように送迎サービスすることを決められた。会議時に、認知症サポーター講座を開催した際には、認知症の症状を具体例を交えてお話しするように工夫され、参加者からは「良くわかりました」との感想をいただいた。市内の他のグループホームとは、会議を通じて相互に出席し合っておられ、お互いの情報交換の場となっている。
 重度化した場合には、ご家族から隣接の老人保健施設への入所希望もあるが、昨年、「のぞみ」ユニットでは、ご家族、主治医と話し合い、訪問看護やご家族と協力し合って看取りを支援した事例がある。協力医の往診やご家族も事業所に泊まり、職員も安心して支援に取り組まれた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 社会福祉法人正和会

(ユニット名) のぞみ

記入者(管理者)

氏名 舟田 清子

評価完了日 23 年 12 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を共有し、ゆっくりと利用者さんと関わる時間 を作っている。最近では食事時間を一時間とるようにし て、食後の飲み物の時間を楽しんでいる。最近では利用者 さんもそれになれて食後もゆっくりと落ち着かれ、笑顔が多 くなった	
			(外部評価) 「ゆったり、一緒に、楽しく」の理念について、管理者は、「利 用者さんのペース」に合わせることの大切さを職員に話して おられる。又、利用者が「ゆったり」と過ごせるような取り組み も具体的にすすめておられ、調査訪問時、昼食の時間 には、職員も席に着いて一緒に食事したりおしゃべりをして、 利用者が落ち着いて居られるように雰囲気を作っておられ た。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域のお祭り、イベント等に利用者さんと一緒に参加してい る。自施設のイベントには立地条件上、地域の方が参加 にくいので送迎サービスをしている。地域の方も気軽に 日常の声かけをしてくださる。	
			(外部評価) 花見や月見、納涼祭等の行事には、地域の方達にも参加い ただけるよう、車での送迎サービスをされており、地域の方の 参加も増えたようだ。又、病院受診時や地域のお祭りに出か けた際には、地域の方から声をかけてもらうことも多くなっ た。運営推進会議時にメンバーの方からボランティアを紹介 していただき、歌や踊りのボランティアの方達が来てくれて、 利用者を楽しませてくれている。餅つきの際には、南宇和高 校のサッカー部員も手伝ってくれており、利用者も餅をつい たり丸めたりして交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 認知症サポーター研修の実施のため地域の方に声をかけた が、その前に自治会のほうで受講したとの事で参加は得られ なかったが、運営推進会議で施行できた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 推進会議で得た情報を生かし、施設でも良いことは取り入れている。又自施設の事業経過報告をして、足りない部分、もっと良い方法等があったら意見をもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、地域の情報や外出先を教えていただいたり、ボランティアを紹介していただくこともある。評価実施時には、結果を報告して、地域とおつきあいを深められるよう、メンバーと意見交換を行い、行事時には地域の高齢者が参加しやすいように送迎サービスすることを決められた。会議時に、認知症サポーター講座を開催した際には、認知症の症状を具体例を交えてお話するように工夫され、参加者からは「良くわかりました」との感想をいただいた。市内の他のグループホームとは、会議を通じて相互に出席し合っており、お互いの情報交換の場となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のほか、GH連絡会等に参加して、行政との連絡を密にして、お互い協力し合っていると思う。その中でよい情報を出来るだけ取り入れるようにしている	
			(外部評価) 市の勉強会には、職員も参加し、他事業所とともに勉強をされている。毎月、介護相談員の訪問があり、利用者の話を聞き取ってくださっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内でも研修をして、職員も充分理解して対応している。入所時家族さんにもしっかりと話し、理解してもらっている	
			(外部評価) 法人内の研修会時に身体拘束について、勉強をされている。事業所では、言葉による拘束についても気を付けておられ、「ちょっと待ってね」というのではなく、言葉に置き換えて利用者の行動を抑制しないように配慮されている。利用者の気持ちが落ち着かないような時には、お好きなパズルや塗り絵に気が向くように支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内での研修も徹底しており、職員も充分理解している	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設内での研修等で勉強している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時は契約書に基づき説明し、納得の上で入所してもらっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設内玄関に「ご意見箱」を設置し自由に意見をもらっている。又運営推進会議にも参加してもらって気がついたことを教えてもらっている。面会時に要望等と言われる家族さんも居る。 (外部評価) 季節毎にホーム便りを発行しておられ、利用者の行事等の様子や表情がよりわかりやすくなったことを、ご家族は喜ばれている。運営推進会議には、各ユニットから1名ずつご家族が参加されている。職員は、電話でのご家族への連絡時には、顔が見えない分、言葉に気を付けるようにされている。	納涼祭時には、ご家族の参加が多いことから、管理者は、納涼祭が始まる前に家族会を行ってみることを考えておられる。家族会の持ち方等を工夫して、ご家族との関係をより深め、利用者の暮らしやケアについて具体的に意見や要望を引き出していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日のミーティングで自由に意見が言えるシステムになっている</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎朝の申し送り時にケアについての意見は、職員会で検討され、採り入れていけるよう取り組まれている。職員のアイディアで、利用者個々の薬が日曜日に切れないようにカレンダーに記入して、早めに受診できるようにされている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>「福利厚生がしっかりしているので安心して働ける」と職員の言葉</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>年一回管理者研修、新人研修、が行われている</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>GH連絡会、地域密着型サービス協会当の研修等には必ず参加し学べる環境にある。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>アセスメントをしっかりと、本人さんを「知る」事に努めている。本人さんの意思を尊重し、意見を傾聴する</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時、家族さんが思っていることを言いやすい雰囲気作りに心がけている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初回面接、アセスメント時間聞き取り、必要であれば他施設の空き情報等と含め話し合っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 施設内外の研修等に参加すること多く、GHの理念は理解できており(家族的な関係)、職員全員が同じ考えで利用者さんと接している	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんとは連携を密にし、情報を共有しながら、ともに本人さんの介護に当たっている	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅生活時のかかりつけ医、お墓参り、住み慣れた家の訪問は家族さんの了解を得て、できるだけ一緒に行くようにしている。	
			(外部評価) ご自宅近くのお店に買い物に出かけたり、衣替えにご自宅に戻り、庭に咲く花を持ち帰って、居室の仏様に飾る方もいる。俳句が趣味の利用者には、ノートを用意して、思い付いた時に書き留めることができるように支援されている。調査訪問時、利用者の方が、ご自分の母親の100才のお祝いで総理大臣からいただいた表彰状を見せてくださり、「私も100才までは生きていたい」と笑顔で話してくださいました。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者同士と一緒に遊べるような工夫をしている。 利用者さんも、職員と話すよりも利用者さんと話すときがうれしそうである
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	利用が中止になって老健入所になった利用者さんの必要な情報はもちろん、本人さんが新しいところになれるように協力している。 必要であればGHのイベント等に招待し、本人さんの気分転換を図ったり、面会に行き本人さんが笑顔で暮らせるように協力している。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	本人さんの意見を傾聴し、できる限り個々の思いに沿うように努力している。
			(外部評価)	
			職員は、利用者1対1で行う学習療法の時間に、ご本人からいろいろなお話が聞けるようで、センター方式のアセスメント表を用いて、生活歴、家族構成、学・職歴、以前の生活の様子について情報を集めておられる。又、日々の申し送り時には、利用者の気持ちや思いや意向を申し送り、職員で共有してかかわるように努めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	入居面接時、対象者の生活歴が必要とと思っているので、できる限り教えてもらっている。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	本人さんには入所後も今までの生活と同じようにすごしてもらえるように勤めている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族、担当職員、計画担当者で話し合い、本人家族さんの要望を聞いて、よりよい暮らしの提供に心がけている</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、6ヶ月毎に見直しておられ、入院等、身体的な変化があれば、その都度見直されている。見直しの際には、ご本人、ご家族の希望を聞き取り、担当職員と計画作成担当で話し合い作成されている。毎月の「ケアプラン評価表」はグラフでわかりやすくされており、又、前月と比べることもできるようになっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の経過記録、ケアプラン実施チェック表、月ごとのケアプラン評価表、アセスメント等を参考にしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>いつでも意見を聞けるようにして、本人、家族さんの要望を生かせるようにしている</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域との関係も断ち切らず、情報を得ながらできる限り地域に出かけるように心がけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	できるだけ、在宅生活時と変えないように心がけている。	
			(外部評価)	以前、ご自宅近くのかかりつけ医で診てもらっていた方は、いざという時の対応等も考慮して、事業所近くの協力医で診てもらうことに替えられた方もある。歯科は在宅時のかかりつけ医を受診されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	毎日看護師が来て、個人の経過記録に目を通して。看護師が不在のときは、訪問看護、老健の看護師に相談できるようにしている。緊急時も応援がある。	
			(外部評価)		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	病院側からも聞かれるが、こちらからも必要な情報は提供している	
			(外部評価)		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	家族さんの要望があれば、かかりつけ医ともよく話し合いできる限り住み慣れたところで安らかな最後を迎えてほしいと思い、取り組んでいる。	
			(外部評価)	重度化した場合には、ご家族から隣接の老人保健施設への入所希望もあるが、昨年、「のぞみ」ユニットでは、ご家族、主治医と話し合い、訪問看護やご家族と協力し合って看取りを支援した事例がある。協力医の往診やご家族も事業所に泊まり、職員も安心して支援に取り組まれた。現在、「ささえ」ユニットで看取り支援を行っているところである。7月に口から食事することが難しくなり、主治医からは医療処置は難しいという意見もあり、ご家族は、ご本人は「若い時苦労したから、辛い思いはさせたくない」と希望され、事業所での看取りを希望された。人と関わる事が好きな利用者であったこともあり、昼間は、居間で過ごせるよう支援された。利用者から「食べんと元気になれんよ」と声をかけてもらい、嬉しそうな表情もみられたようだ。食事は、パン、牛乳、蜂蜜、卵、砂糖等でパン粥を作り、少しずつ口から食べられるよう気長に支援され、今ではご自分の力で座り、食事が出来るようになり、法人の老健で機械浴をお借りして入浴もされている。さらに、もぞもぞして「うんが出る。うんが出る」と言われるようになられ、トイレで排便できるまでに状態が改善された。管理者は、「口から食べる大切さを知り、奇跡を見ているようです」と、話してくださった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設内研修、消防署での訓練に参加している	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人内で年二回、避難訓練を実施している。その際GH独自の避難訓練をしている。	事業所は、岩盤の硬い高台に立地しているため、地震にも強いと予想されており、地震時の訓練はあまり行っておられないようだが、この機会に、想定外であっても訓練を行っておくことも検討されてはどうか。又、地域との協力体制についても、どのような協力ができるかということを具体的に話し合う機会にされてはどうか。利用者、職員、地域の方達の安全に向けた取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 隣接されている法人の老健施設と年2回合同の避難訓練を実施されている。その際には、事業所で作成したマニュアルに沿って昼間と夜間を想定した避難訓練を行っておられる。居間からの避難経路が木造で、避難誘導がスムーズにいかないという反省点があり、職員の提案もあり、コンクリートのスロープに手すりを付ける等して改善されていた。地域の避難場所は、ホームセンターの駐車場となっているが、事業所は高台に立地し、備蓄もあることから事業所も避難場所になる可能性もあるようだ。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人一人が勉強して、同じ対応が出来ている	
			(外部評価) 特に、排泄の失敗がみられた時には、利用者のプライドを傷つけないように「水で濡れている」「濡れたら風邪を引くから」等、声かけに配慮して着替えができるよう支援されている。パンの移動販売が来る際には、ご自分の好きなパンを選ぶように支援されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何をすることも利用者さんに聞いて、よく理解してもらった上で行っている。献立のメニュー表の作成時も、利用者さんの希望を取り入れるようにしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) お茶の時間にも、一人一人好みの飲み物、食べ物を聞いて 用意している	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 外出時等、一緒に洋服を選んでいる	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのメニューを聞いたり、下ごしらえ、味末等 のしてもらったり、食事の片付けを手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 食事の時間を「ゆったり」と取り、又、食後には、職員も一緒 にコーヒーを飲みながら、好きな食べ物や献立の話題や誕 生日には何が食べたいか等お聞きしながら、のんびりした時 間を過ごされていた。食事は薄味を心がけ、塩分制限のある 利用者には、おかずは早めに取り分け、お汁はお湯で薄め るようにされている。食材は、週3回利用者とスーパーに買い 出しに行っておられる。2ユニットで主菜と副菜を1日おきに 作り、ユニットで役割分担して作っておられる。法人の畑で 採れた大根で漬けた漬け物が、調査訪問時の食卓に上り、 利用者に好評であった。又、鶏肉、レンコン、人参、ごぼうを 圧力鍋で柔らかく煮てあり、食べやすく調理されていた。利 用者は、それぞれに下膳されたり、テーブルを拭いたり、食 器を洗っておられた。風邪気味の利用者が多いため、調 査訪問当日は、野菜の下ごしらえは中止しておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事量のチェックをしている。必要であれば補助食品、 個々に合った食事の形態で提供している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔衛生には注意して、声かけ、誘導して出来ない 人は介助している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	GHでは、すべて自己負担になるため、オムツの使用は極力少なくしている。時間ごとのトイレ誘導、声かけの工夫に努めている。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	主治医と相談したり、水分摂取、食品等に気をつけている。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	毎日入浴は出来るようになっている。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	夜間眠れない人にはココア、ミルクなど飲んでもらったりして落ち着いてもらって居る	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬管理をしているが、飲んででも飲んでないと訴える人のためと、誤投薬防止のため日付を入れた薬袋を残している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 敷地が広いので、焼肉、焼き芋、運動会ほかいろいろなイベントをして、外で食事をし気分転換をもらっている	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望があると個別に外出介助をするが、あまり出たがらない人のため、花見、ドライブレク等施行している	外出支援については、職員の制限等もあって、支援に難しさもあるだろうが、今後さらに利用者の行ってみたいところや懐かしい場所を探ったり、特に外出の希望を表出することが難しいような利用者について意向を探ってみてほしい。さらに、支援を拡げていくためにもご家族や地域の協力を得られるよう、働きかけていかれてはどうだろうか。又、地域の認知症の理解や協力への取り組みもすすめられて、利用者のさらなる生活の拡がりを支援していかれてほしい。
			(外部評価) 2ヶ月に1回、ユニット毎に梅、藤、コスモスのお花見に出かけたり、そうめん流しに出かけておられる。年末には、希望する利用者と津島のイルミネーションを見に出かけられた。食材の買い出しの際に一緒に出かけて、居室の仏様に供えるお菓子や自分の好きなおやつを買われる利用者もいる。併設老健の奥のごみ置き場まで、職員とごみを出しに行かれたり、敷地内には、各所にベンチが設置されており、利用者は外に出られたり、散策をされている。きれい好きな利用者は、庭の落ち葉を掃除してくださったり、老健の機械浴に入りに行く時、遠回りして散策することもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 当GHでは任地の進んでいる人が多く、自分で管理している人は数名である。ホームへ出売りの店が来たときはすり名物を選んでもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 介助により支援している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関には利用者さんが散歩に行ったときに取ってきた花がいけてあったり、水の入れ替え等自由にしてもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所は、高台の自然があふれた場所に建つグループホームで、調査訪問時には、玄関にお正月の門松やしめ縄が飾られていた。居間のテーブルには、椿と一緒に庭に咲いている水仙が生けられていた。金魚の世話をされたり、塗り絵、色鉛筆、ジグソーパズルが準備されており、調査訪問時、楽しんでおられる様子がみられた。壁には、利用者が詠んだ俳句や塗り絵、ちぎり絵が飾られ、ホーム便りも掲示されていた。空き箱に新聞紙を詰めたものが、利用者が椅子に座った際の足台になっていた。外で犬を飼っておられ、居間から様子が見られ、昼食後、犬を見ながらおしゃべりされていた。猫はユニット間を歩き来して、食事時は外に出しておられた。居室の名札の上には色違いの帽子の飾りが付けられており、トイレ、お風呂は大きな字で表示されている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>天気の良い日は外のベンチで話したり、テレビを見たり自由に過ごされている様子</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時本人さん気持ちを取り入れ、アルバム、たんす、仏壇、置物、食器等本人さんが見て安心できるものを持ってきてもらうようにしている。かかりつけ医も出来るだけ在宅生活の時と変えないように心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室は全室畳の部屋になっており、ベットが設置されている。利用者が新しくなるたびに新しい畳を入れ替えておられる。仏壇、洋服ダンス、テレビ、テーブル、お人形、写真等、それぞれの馴染みのものを持ち込んで暮らしておられる。夜間、入口ドアから入る明かりを嫌う方には、紙を貼っておられた。他利用者が入室するのを嫌がる利用者の居室入口には、飾りに見える鈴を付けて分かるようにされていた。仏様に備えるお茶やご飯を職員が居室に届け、ご本人が以前から行っていた通り、供えられるようサポートされている。冬場、昼食後に「ひなたぼっこしてくる」と居室に戻り、ベットに腰掛けて過ごすことが日課となっている方もいる。利用者が居室にいない時間帯には、できるだけ居室の換気に努め、臭いがこもらないように気を付けておられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>本人さんのできることは最大限生かせるように、洗濯干し、たたみ、調理の下こしらえ、味見等それぞれのやり方で行っている。利用者さん同士話し合いながら、お互いのやり方を尊重して居る様子。</p>	